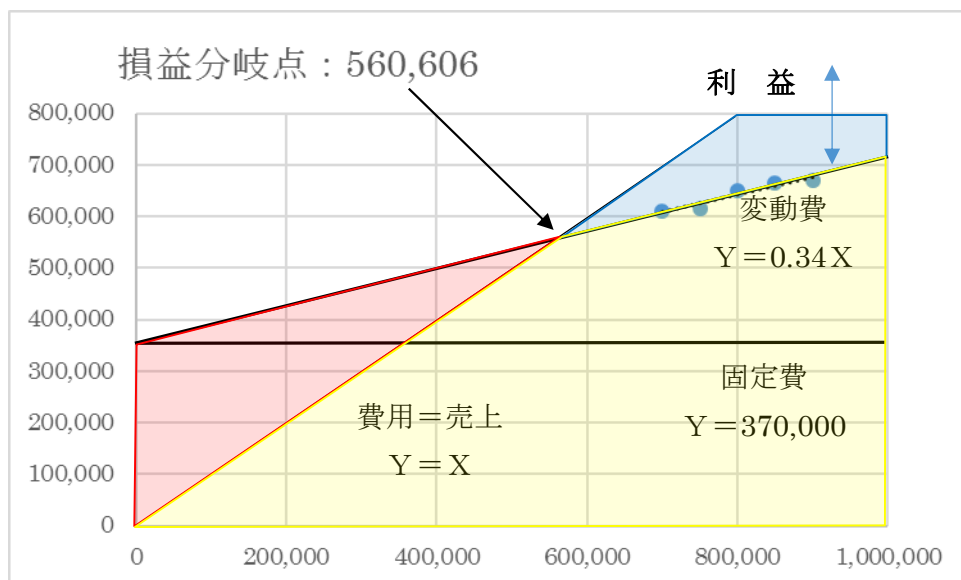


7. 損益分岐点

損益分岐点は、呼んで字の如く、損と益がちょうど同じになる場所である。これを算式で表すと売上＝総費用（固定費＋変動費）となる。損益分岐点の計算方法は、固定費÷（1－変動比率）となり、先の最小二乗法のデータを使用すると、 $370,000 \div 0.66$ で、損益分岐点は 560,606 となる。図で表すと次のようになる。



売上が損益分岐点 560,606 を超えると売上の 66% はすべて利益となる。損益分岐点は、企業が利益を出すための指標であるが、それはあくまでも収益がトントンになる金額である。例えば利益を 200,000 出したいとすれば、固定費＋利益を 1 から変動比率を差引いた 0.66 で割り戻した金額がその売上金額となる。

算式では、 $(370,000 + 200,000) \div (1 - 0.34) = 570,000 \div 0.66 = 863,636$ となり、863,636 の売上で、利益が 200,000 となる。利益を 300,000 出したいのであれば、同様に固定費に加算して計算すれば、300,000 の利益が出せる売上金額がはじき出せる。ただし、R 2 乗値が 0.9233 となっていたが、 $1 - 0.9233 = \pm 0.0767$ の範囲で誤差が生じることも考慮する必要がある。